

その十一 ゆにふあんで 新型コロナウイルス対策支援



経済とくらしの回復に向けて

新型コロナウイルス感染症による政府の緊急事態宣言が解除され、少しずつではありますが、自粛から解放された生活に戻りつつあります。しかし、ウイルスが消滅したわけではありません。これからも、私たちはウイルスが常にそばにいること(ウィズウイルス)を意識しながら、「新しい生活様式」の中で、経済やくらしの回復をはかっていかなければなりません。

改めて、新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに罹患者の治療中の方、不安の中で日々をお過ごしの方々の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、医療の最前線でご対応されています

「ゆにふあんで」一歩行動を

連合も、昨年10月に「ゆにふあんで」という支え合い、助け合いの場を設け、連合のホームページに公開しています。新型コロナウイルス対策支援のバナーをクリックして専用ページを開いてみてください(左を参照)。連合の仲間、また連合と志を同じくする民間非営利セクターの方々が、新型コロナウイルスで困っている人々を支援する活動が紹介されて



る関係者の皆様、感染拡大の収束やその対策にあたっては行政や公共サービス関係の皆様、そして私たちの日々のくらしを支えるインフラ、流通等様々な分野で対応されている皆様に心から感謝申し上げます。そこには、連合の仲間の皆さんが大勢おられます。皆さんのご奮闘のおかげで医療崩壊を防ぐことができ、公共インフラも維持され、生活必需品を手に入れることができました。

政府の対策が届かない分野も

私たちは、こうした未曾有の状況下で、様々な困難に直面している人たちがいることに目を向ける必要があります。政府は、国民すべてに1人10万円の特別定額給付金を支給したり、休業を余儀なくされた働く人の雇用を守るための雇用調整助成金や、中小企業が事業を継続することが

できます。また、それがどのような支援を求めているかが図示されています。クラウドファンディング、物資の支援、ボランティアの支援、募金・寄附金です。前頁に紹介したように一例をあげると、東京ではフードバンクや子ども食堂、その他連合東京が活動を認める団体へカンパで資金援助する活動が掲載されています。新型コロナウイルス感染症拡大により、社会貢献活動を行うフードバンクや子ども食堂などの団体は、①人手、②食料の在庫、③資金の課題に直面し、早

できるための持続化給付金などの対策をとっています。しかし、こうした対策ではカバーできない分野もたくさんあります。

たとえば、厳しい活動環境にありながらも、子ども食堂やフードバンクなど民間公益活動の現場を支える多くの団体の方々の様々な活動には、税金を使った政府の支援が行きわたっていません。

そこで、内閣府から休眠預金の活用についての指定団体となっている「日本民間公益活動連携機構(JANPIA)」は、休眠預金等活用事業の枠組みを使って、「子ども・若者への支援」「日常生活等を営む上で困難を有する者の支援」「地域活性化等の支援」の活動に対して総額で最大50億円の助成事業をすることを決定し、その公募を行っています。JANPIAには私も非常勤の理事としてその活動に関わっています。

期の支援を必要としています。また、コロナ禍で働くことができなくなった労働者は、収入減少のために食費を削り、生活を維持している実態が報道されています。このような状況から連合東京は、「今できること、それは助け愛」として、フードバンクや子ども食堂の団体へ資金援助をするため、緊急カンパを実施しています。

また、連合山梨では、フードドライブの活動に毎年継続できるボランティアを募集しています。フードドライブとは、安全に食べられるのに、包装に印字のミスや破損があったり、賞味期限が近かったりするなどの食品を企業・個人から寄付してもらい、福祉施設や生活困窮者に無償で提供する活動です。全国各地でこのような活動が行われています。

私たちは一人では生きていきません。自粛生活の中でも人とのつながりはあつたはず。その想い、志を行動に移してみませんか。私もクラウドファンディングで、あるNPOに支援の申し込みをしました。手続きはとても簡単でしたし、すぐにお礼のメールも届きました。

私たち一人ひとりができること、それは、ほんの少し誰かを想い、一歩行動してみることです。

行不由徑(ゆくにこみちによらず)とは、論語にある言葉で、「裏道や小道を通らず、常に正道を行く」という意味。本コラムでは、これまでの連合運動を振り返りながら次の時代を考え、連合が歩むべき正道とは何かを逢見会長代行が語ります。